

北海道における都市計画を再考するキックオフミーティング —北のまちづくりサロン・第1回懇談会 開催報告

安富 啓 株式会社 石塚計画デザイン事務所 / 日本都市計画学会北海道支部 幹事

1. 「北のまちづくりサロン」の概要

北海道支部では、2018 年度から「まちづくり研究会（以下「研究会」という。）」の活動がスタートした。都市計画のほか、交通、観光、産業振興、景観といった北海道ならではのまちづくり課題を考える活動である。

官民間問わず、現場で活躍するゲストを招き、課題や今後の展望を議論する場（研究会主催）が「北のまちづくりサロン（以下「サロン」という。）」である。

これまで延べ 12 回の開催を通じて、北海道のまちづくり関係者による顔の見えるネットワークが広がったことは大きな成果と考えている。

2. 支部活動のあり方考える懇談会の開催

北海道支部では、新たな会員（特に若い世代）の加入停滞、活動参加委員の固定化が問題となっている。

そこで、まちづくり関係者における情報交換・議論のプラットフォームとして根付いてきたサロンは継続しながらも、上記問題の打開策を考える第一歩として、2023 年度から「北海道支部の課題とこれからの可能性を語ろう」を新たなテーマに加え、支部活動のあり方考える懇談会を開催することとした。

3. 第 1 回懇談会の開催報告

次世代を担う会員から支部活動に対する率直な意見をいただきたいという思いから、7名の会員（実務者 2名・研究者 3名・行政 2名）の参加を得て、第 1 回懇談会を開催した。概要は下記の通りである。

【メリット】～北海道支部への入会や活動に関して～

- ネットワークづくりのプラットフォーム（多分野会員との交流、顔が見える関係構築等）
- 生きた情報・知見の共有（最新動向フォロー、論文アーカイブ閲覧、研究の質が高い等）
- 異分野会員による特徴的な構成（実務者が多いことが北海道支部の特徴等）
- 都市計画・まちづくり研究の実践の場

【課題】～北海道支部の役割・活動に関して～

- 活動の見える化・アーカイブ化（外から活動が見えない、ハードルが高い・面倒なイメージ等）
- 参加機会の選択肢の提供（子育て世代の参加のしや

すさ担保、論文提出以外の関わり方等）

- 事務量の軽減（特定年代会員への事務負担の偏り等）
 - 都市計画研究の推進（北海道における都市計画研究室の少なさ等）
 - 札幌市以外の行政会員とのネットワーク拡充
 - 費用対効果の提供（複数学会入会時の会費負担の大きさ等）
- 【可能性】～北海道支部のこれから～
- 支部活動の情報発信強化（WEB 改善）を急ぐ
 - 支部への関わり方のバリエーションを増やす（入会目的の尊重、非入会者との効果的ネットワーク等）
 - 学会間連携等による研究交流を推進する（合同発表会、シャレット WS、結果的に事務スリム化等）
 - 相談窓口・伴走者としての学会の役割を強化する（特に行政へのノウハウ提供支援等）
 - 学生が「やりたい企画」を応援する（学生インタビュー成果の書籍化等）
 - 支部の強みとしてローカルな課題へアプローチする（雪害対策、地域ならではの課題等）
 - 社会課題の解決ツールとしての都市計画のあり方を再考する

4. 最後に～都市計画の新たな役割を牽引する支部へ

懇談会の終盤では、人口減少社会において、開発規制や土地利用誘導を担う都市計画の主な役割が終焉しつつあり、今後は、社会課題解決を担うまちづくりが求められているのではないかと議論となった。

人口減少社会そして北海道における都市計画の新たな役割とは何か、その中で、北海道支部が担うべきことは何か、視野を広げて議論していきたい。次回以降は、非会員の参加も得て懇談会を開催していく予定である。



[写真] 北のまちづくりサロン・第1回懇談会（2023.9.6）の様子